

お知らせ（平成26度）

『第16回熊本県腎不全看護研究会』



場 所： 済生会熊本病院 外来ガン治療センター

日 時： 2015年2月8日(日)

この度は風が冷たい中、研究会にご参加いただきありがとうございました。前回の続きで 琉球大学医学部付属病院地域医療部 金城隆展先生をお招きし『カード方式で考える医療倫理:対話し協働するケースカンファレンスを目指して』というテーマでグループワークを交えながらご講演いただきました。グループワークでは、事例をもとに、班内の1人1人が情報(カード)を分散してメンバーに知られないように持ち、情報収集の過程でどのような情報が必要なのかを自分たちで考え、その情報から物語を構成するという事を行いました。各グループとも 真剣に取り組み、与えられた時間をいっぱい使いディスカッションされていてとても実りのある研究会になったのではないかと思います。

今後も当研究会では年2回の研究会を企画し開催していく予定ですのでご参加をよろしく願いいたします。また、ホームページも活動報告などを定期的に掲載していく予定ですのでご覧ください。

『第6回 佐賀県腎不全看護研究会参加報告』



場 所： 佐賀県佐賀市 マリントピア 3階 安土の間

日 時： 平成27年1月30日(日) 9:30~11:50

第6回佐賀県腎不全看護研究会へ世話人2名が参加しました。私たちは前日から佐賀に入り、世話人の方々や福岡のDLNの方と講師の先生を囲む懇親の場で透析看護を語る時間を持ちました。

研修会当日、天候もよく寒さが身に染みる冬の日でしたが、会場のマリントピアには120名を超す参加者が集まり熱気にあふれていました。一般演題2題、維持透析患者へストレス対処能力の分析を行った取り組み「外来透析患者のストレス対処能力SOC」と「佐賀県腎不全看護研究会アンケート結果報告」の発表が行われました。佐賀県における質の高い腎不全看護師育成に貢献するため、6年目を迎えた研究会の今後の方向性が示されました。その後、昭和大学保健医療学部看護科 老年看護学准教授 三村洋美先生による「腎不全患者が生きることにより寄与する～闇の軌跡を活用して～」の特別講演が行われました。慢性疾患の看護モデル“闇の軌跡”の特徴や有用性、また、臨床現場でどのように活用していくのかを三村先生自身が経験された事例を紹介しながらわかりやすく講演していただきました。「腎不全看護とは何か？」という問いには、「看護師が何かを変えていくのではなく、患者が自ら変えていくことを支持する、寄り添い続けていくこと」と。「闇の軌跡」は、「ひとりひとりの人が生きた軌跡であり、看護師にとっては人が生きることにより寄与させてもらう貴重な体験だ」と話されたことが心に残りました。腎不全看護に携わるひとりとして思いを新たにしたい1日でした。

『第15回熊本県腎不全看護研究会』



場所: 済生会熊本病院 外来がん治療センター

日時: 2014年9月7日(日)

この度は日曜日の晴天のなか、たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。『みんなで考える医療倫理: 物語る倫理(ナラティブエシックス)のススメ』と題し、琉球大学医学部附属病院地域医療部金城隆展先生をお招きし御講演いただきました。とてもユーモアで、分かりやすく、映画の一部シーンやCMなどみじかなことを入れ込みながらお話していただき、あっという間の2時間でした。医療の質を問われているいま、今回参加された方にとって心に残る時間を過ごせたのではないかと思います。次回の研究会でも金城先生を招いて行いますので、楽しみにしたいと思います。

『福岡県 CKD 看護研究会』



場所: 九州大学医学部 百年講堂 大ホール・中ホール

日時: 平成26年7月6日

テーマ: 「慢性腎臓病(保存期・腎移植・PD・HD)に携わる看護者の交流を深めよう！」

第2回福岡県CKD看護研究会に世話人2名が参加しました。昨年は大雨、今年も雨という天候の悪い中、多くの方が参加されていました。

午前中の特別講演は、琉球大学附属病院の臨床倫理士の金城隆展先生でした。倫理の話を知りやすく、笑いあり、時にはしんみりと心に響く話もあり、あっという間の1時間半でした。

休憩後から午後の開催までの間にインフォメーションという時間が1時間設けてあり、在宅透析の紹介とカテーテル留置用の衣服紹介がありました。カテーテル留置用の衣服は、単につなぎ服ではファッション性がないため、施設で独自に材質やファスナーの位置などを研究され作成した物で、ファッションショーのように衣服を着用したスタッフが会場内を歩き、参加者に材質などを触ってもらう時間もあり、大変面白い企画だな...と感じました。

午後は4つの交流集会(PD体験、治療選択、抜針防止、腎移植)が行われ、他施設の方との交流の場が持て、有意義な時間が過ごせました。研究会のテーマ通り、多くの交流が持てたのではないかと思います。

ポスター掲示は、16の演題があり熊本県からも3演題が出されおり、多くの施設の取り組みが報告されていました。

熊本県腎不全看護研究会でも今年9月に上記の金城隆展先生の講演、来年2月にグループワークを企画しています。とても分かりやすく倫理を語って下さいますので、多くの方の参加をお待ちしております。

『第5回宮崎県腎不全看護研究会』



場所:宮崎県 宮崎市民プラザ 4F ギャラリー

日時:平成 26 年 6 月 1 日 10:00~13:00

第5回宮崎県腎不全看護研究会に世話人2名が参加した。研究会当日、宮崎駅近くで不発弾の撤去作業があり、宮崎駅の閉鎖、周辺の交通規制と言う珍事と重なったが、約 200 人が集まる盛況ぶりであった。

まず、「糖尿病患者・透析患者のフットケア」というテーマで、鉦和会 平和台病院看護部 村田多美子教育師長により、糖尿病性足病変の概要から、ケアの重要性、具体的なケアの方法やポイントについての講義が行われた。その後、参加者は、前もって組まれたペアと 40 人 1 単位で5つのブースを移動しながら、①爪ケア ②血流・神経チェック ③フットマッサージ ④ベンチ・角質ケア ⑤靴の選び方・除圧方法の実践を学んだ。それぞれのブースでは、巡回する糖尿病看護認定看護師に指導を受けながら、コーンカッター、ニッパー、ゾンデを用いて足模型の胼胝・爪ケアを実践し、最初は恥ずかしがりながらもペアの足を交互にチェック、足マッサージ等を行いケアの体感をする充実した研修であった。

最後に、宮崎地域糖尿病療養指導士認定機構が設立され、「地域糖尿病療養指導士(LCDE)」資格制度を設けるということで、資格試験にチャレンジするよう呼びかけられた。看護職としての専門性発揮が期待される。